

市民との協働による「さぬきの森」利用促進 に向けた活動報告

香川河川国道事務所 公園課 古市 圭司
香川河川国道事務所 指導官 高橋 俊也

讃岐地方の里山を色濃く残す「さぬきの森」で、市民との協働による自然環境の保全や里山伝承及び利用促進に向けた活動の中で効果や課題を整理し、対応策からみた今後の都市公園の活動のあり方についてとりまとめた。

キーワード 国営公園、里山、市民活動、協働、利用促進

1. はじめに

国営讃岐まんのう公園は、香川県まんのう町の我が国最大級の農業用ため池である「満濃池」を望む丘陵地に位置しており、満濃池とその周辺の豊かな自然、そして空海を生んだ四国の文化的土壌を活かして、基本テーマを「人間との語らい、自然・宇宙とのふれあい」とした、総面積350haを有する四国唯一の国営公園である。

また、整備以前の本公園内は、かつて里山として、満濃池と共に周辺住民の生活に密接に関わっていた経緯があり、平成25年4月には、これら豊かな自然環境と、里山文化の伝承を目的とした「さぬきの森（152ha）」が開園した。

更に、本エリアの開園に合わせて、里山環境の保全と、その魅力を活かした利用の促進を、周辺住民と共に図るべく、さぬきの森をフィールドとして活動するボランティア団体「さぬきの森の会」が発足しており、これまでに様々な取り組みを行っている。

本報告は、「さぬきの森」の開園から5年が経過し、上記のボランティア団体の活動経緯からみた、公園の利用促進に資するその特徴や課題を整理することで、都市公園における活動のあり方についてとりまとめた。

2. 「さぬきの森」の概要

「さぬきの森」は、公園の北東部に位置し自然の森を楽しむことをコンセプトにしており、地域固有の貴重な里山を保全するために、整備を必要最小限に抑えたエリアである。（図-1）

エリア内を周遊する散策路と併せて、植生遷移や、山と人間の関わり、更には貴重な植物について紹介した解説のサインを整備しており、自然植生や里山文化を学び

つつ、また森林浴を楽しみながら散策が可能となっている。（写真-1、写真-2）



図-1 位置図



写真-1 さぬきの森の散策路



写真-2 解説サイン

3. 「さぬきの森の会」の活動

(1) 「さぬきの森の会」の概要

さぬきの森の会は、“市民共同による讃岐らしい里山再生”をテーマに、森づくり（整備・保全・森利活用）を自主的に実施する団体として、地元住民や森づくりに関する既存の複数のNPO団体の会員等が集まって結成された団体である。（写真-3）



写真-3 さぬきの森の会発足式（2013年4月18日）

(2) 「さぬきの森の会」の活動計画

さぬきの森の会は、もともと森づくりの専門家で構成される団体で、各会員が異なる専門性（間伐・植栽の専門家、鳥類の専門家等）を有していたが、結成当初は活動の方向性が明確でなかった。そこで、活動内容の定着化や会員間の結束強化を図るべく、長期的な活動計画（平成25～30年度の5ヵ年計画）を国と協働で作成した。活動計画では、さぬきの森の主旨を鑑みながら、以下の3つの柱を設定した。

a) 森林利活用プログラムの検討

さぬきの森の特徴を活かして、公園を楽しむ利活用プログラムを検討。エリア内を踏査し、自然資源の特徴を踏まえつつ、さぬきの森の会メンバーと協議しながら、利活用プログラムを考案し実践した。（写真-4）

また平成28年度からは、平日における利用者増加を目指し、年度当初及び学校の年間行事が検討される1月頃に、まんのう町内の小学校（6校）へ環境学習の場として利用できる旨のPR活動を実施し、環境学習の場としての利用促進を図った。（図-2）



間伐体験



野鳥観察会

写真-4 さぬきの森の特徴を活かした利活用プログラム例



図-2 小学校PR活動時に活用したパンフレット

b) 里山づくり（樹林管理）の検討

市民参加型によるさぬきの森の里山保全を図るべく、さぬきの森の会の意向を踏まえた樹林整備メニューを検討。広いエリア内でさぬきの森の会が重点的に活動するエリアを設定するため、さぬきの森の特徴を踏まえた管理ゾーニング計画を作成するとともに、植樹のためのドングリの苗づくりや、森林内を彩るオウツツジ植栽のための苗づくり等のマニュアルを作成し実施した。（図-3）

c) 森づくり団体の活動支援

さぬきの森の会の支援として、活動を継続し、定着化を図るため、樹林管理（除草や間伐等の活動）に関するメニューを作成しマニュアル化した。また、ボランティ

ア会員の拡充を図るべく、上記マニュアルを用いて、里山整備に興味のある一般参加者が気軽に参加でき、技術を習得できるようスキルアップ講座を作成し、広く参加者を募った。（写真5、図4）

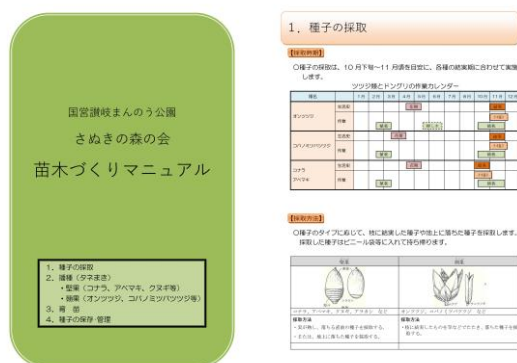


図3 苗木づくりマニュアル



写真5 樹林管理講習の実施状況

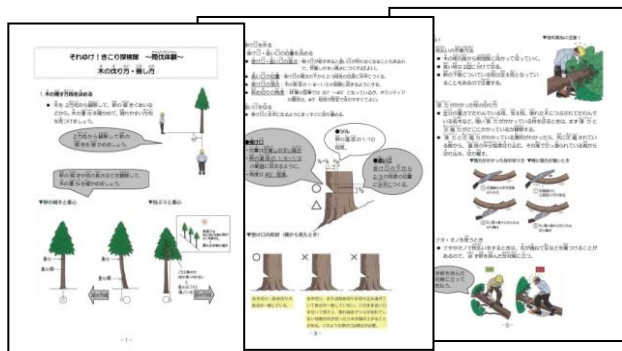


図4 樹林管理講習テキスト

4. 活動上の効果と課題

3つの柱について利用推進に取り組み、5年間継続した結果、環境学習プログラムや観察会による利用促進への効果が得られたが、オンツツジの苗木づくり等で旨くいかなかったなどの課題も確認された。

(1) 活動上の効果

環境学習プログラムの近隣小学校へのPR活動効果により、平成29年度に課外学習の一環として近隣の小学校

から参加申し込みがあり年5回実施した。平成30年度には当該小学校から引き続き年5回実施するなど定例化し、活動が軌道に乗り始めた。（写真6、図5）



写真6 小学校の環境学習プログラムの実施状況



図5 小学校の環境学習用教材

また、さぬきの森には他県では準絶滅危惧種などに指定されているムササビが生息しており、設置した巣箱上面に小型カメラを設置し、ムササビの姿を見ることがができる観察会を行い、さぬきの森の利用促進に繋がった。（図6）

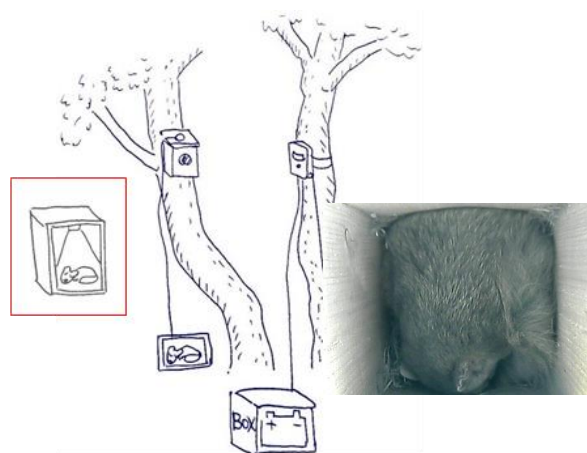


図6 ムササビ巣箱のカメラ設置とムササビの様子

(2) 活動上の課題

市民参加型の苗木づくりの一環として、ドングリとオンツツジの苗木づくりを行ったが、オンツツジは挿し木では発根性が弱いため活着せず、また種子からは発芽し

たが成長が極めて遅く長期間の細やかな管理が必要であり、月に数回のボランティア活動でオンツツジの苗木を育成することは現実的ではないことが分かった。

5. 課題に対する代替案の取り組み

育成が困難なオンツツジの苗木づくりの代替案として、「薬草・薬木」に着目した取り組み案を検討し、新たに取り入れた。

(1) 園内の薬草・薬木

園内には、滋養強壮や整腸作用のあるヤブツバキ、胃弱や食べ過ぎ・飲みすぎなどに効果のあるセンブリ、高血圧予防・疲労回復などに効果のあるヤマグワ等、効能のある薬草・薬木が生育している。（写真-7）



写真-7 園内に生息する薬草・薬木

(2) 薬草・薬木の勉強会のプログラム化

園内にある薬草・薬木を用いて、勉強会や試飲会を新たなプログラムとして設定し実施した。

新しい視点により間口を広げ、森づくりに興味を持ってもらうことで、新たに参加者が加わるなど、活動の活性化が図られた。（写真-8）



写真-8 薬草・薬木勉強会の様子

(3) 薬草・薬木の保全活動

園内にある貴重な薬草・薬木の保全活動を推進するため、現地踏査を実施の上、センブリの生息域を確保するための下草刈りなど、新たな樹林管理項目を設定した。（写真-9）



写真-9 センブリを保全するための下草刈りの実施

6. まとめ

さぬきの森の会発足から50年が経過し、小学校対象とした環境学習プログラムが軌道に乗り、またムササビの巣箱内カメラの設置によって、観察会の充実化が図られた。

また、当初予定していたオンツツジの苗木づくりの難易度が高かったことから、新たに薬草・薬木に着目した管理項目を立ち上げることで、さぬきの森の活動の活性化に繋げることができ、新規会員が加わるなど一定の成果がみられた。

市民との協働による公園の利用促進は、人と人との結びつきによって形成されるものであることから、長期的な付き合いにより、信頼関係を形成するとともに、活動に対して、資料作成などの十分なサポートを行うこと等が重要である。また問題が生じた際は、柔軟な発想で代替案や解決方法を共に検討することが重要である。

これらの結果を踏まえ、公園管理者の担うべき役割は、市民と共に寄り添いながら利用促進を図り、より安定した軌道に乗せ自立を促すことが重要と考えている。